

2020年度事業報告書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

(特定非営利活動法人輝きネットワーク)

1 事業の成果

年度初めより新型コロナウイルス感染症が流行し始め、山形県でも感染者が見られ、学校の休校や緊急事態宣言の中、感染症を防ぐ様々な対応を行いながらメディアかがやき（就労継続支援B型）を運営しなければならなかった。

自動手指消毒や非接触式体温計、パーティション、次亜塩素酸空間除菌脱臭機などを購入し、非接触水栓に改修も行った。また、マスクの配布を行い、1回の送迎人数を少なくして密を避けながら、2回に分けて送迎をおこなうなどの対応をした。

消毒や換気、距離を取っての昼食、正しいマスク着用の声掛けなど毎日の感染予防対策のほか、感染流行地域への外出や来客の場合、2週間在宅利用してもらうなどの対応を行い、職員、利用者の皆さんの協力により感染を防いできた。年末年始は例年より長く休業した。3月末には身近な福祉施設でもクラスターが発生するような状況の中、より一層緊張を強いられる運営となっている。

平均工賃による報酬区分となり、工賃向上が求められる中、就労支援事業は令和元年度に比べ、2割以上の減収となった。4月の収入が前年度の半分以下となり、持続化給付金の給付を受けた。

特にパソコンのデータ入力が大きく落ち込んだ。また、ヤマトのメール便が郵便局委託の為、業務が終了したので、新たにポスティングなどの作業を紹介してもらい、取り組んだ。メール便を担当していた利用者がそのまま移行することが出来た。また以前より県支援の農福連携による農作業に取り組んだ。メディアかがやき単独での楽天市場での仕入販売では新たにシャインマスカットを取り扱うことで、コロナ禍でのネット販売が増える状況とも相まって売り上げが伸びた。しかし全体としては、持続化給付金をそのまま工賃として支給することはできない為、工賃変動積立金を取り崩して、平均工賃1万以上を何とか維持した。

メディアかがやきの利用者は1名が就労移行支援事業所へ移行した。新規に利用を始めた方は4名とも女性で男女比はほぼ半々となった。平均年齢44歳、精神障害の方が半数以上となった。

- ① スキルアップを図る事業ではアビリンピックに取り組み、全国大会に1名が出場した。
- ② 利用状況としてはパソコン部9人、軽作業部4人の目標にほぼ近づき、年間では12.8人であった。
- ③ 新型コロナ感染症流行対策の、臨時的措置として在宅利用を認める通知があり、すでに取り組んでいた1名の他に、基礎疾患のある方2名に取り組んでもらった。その他に流行地域への外出などの理由で2週間の在宅利用支援を行った。5人延べ181日の在宅利用支援を行った。これまでテレワーク支援を継続してきたことが活かされることとなった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

| 定款の 事業名 | 事業内容 | 実施 日時 | 実施 場所 | 従事者の人数 | 受益対象者 の範囲及び 人数 | 支出額 (千円) |
|--|--------------------------|--------------|--------------|--------|----------------------|-------------|
| 小規模作業 所・障害福祉サ ービス・地域生 活支援事業等 を設置運営す る事業 | 就労継続支援 B型事業を運 営した。 | 年間開所 236日 | メディアか がやき | 5名 | 24名 | 26,628 |